



神奈川3区国政対策委員長 前県会議員

木佐木 ただまさ

日本共産党 見解を紹介します

いのちと暮らし
守る政治をご一緒に

<プロフィール>

- 神奈川大学法学部卒
- 元法律事務所職員
- よこはま健康友の会 会長
- 横浜東民商顧問
- 弓道初段 1984年生まれ

休業「協力金」拡充を 財源はあるんです！

日本共産党県議団は、4月20日黒岩知事に対して、緊急の申し入れを行いました。県は、休業要請に協力した事業者に最大30万円、総額120億円の協力金の支援を行うと発表しています。補償をすることは歓迎するところですが、東京に比して額が少なすぎます。

党県議団は、総額7200億円を超える県債管理基金の繰り替え運用で財源を確保することを提案しました。管理基金は3年間で1000億円も積み増しになっています。県民のいのちと暮らしを守ることを為にあらゆる手立てを県に求めていきました。

妊婦さんの安全を守るため PCR検査の早急な拡大を

4月24日、市内の助産院を運営している助産師さんと現状や課題、要望について懇談させていただきました。

語られたのは、助産院に対してマスクや消毒液といったものが政府からは支給されず、母子の命と健康を預かるにもかかわらず医療機関として扱われていないと感じているという事でした。

また、助産院や嘱託医療機関で感染が確認されたときの大まかなガイドラインは神奈川県産科婦人科医会から示されているものの、具体的にどこからどこに引き継げるのかなどの詰めはこれからとのことでした。こうした受け入れを迅速に行うためにも、母体のストレスを低減する里帰り出産を行うためにも、感染していないかPCR検査によって確認し



4/24 助産院から現状と要望の聞き取り

ておくことが必須だとの指摘がありました。次世代の命を育む重要な分野であるにもかかわらず、支援が弱いと感じる妊婦さんや周産期医療体制の支援。そして不安を抱える産後間もない保護者へのケアなど課題がたくさん見えてきました。

まずは、全ての妊婦さんがPCR検査を受けられるなど安心して出産を行える体制の確立に向けて要望していきたいと思います。

健康友の会で防護衣づくり

どの医療機関でも医療資源が不足する中、「よこはま健康友の会」では、汐田病院の医療従事者の方が身に付ける簡易のフェイスガードや防護衣づくりのお手伝いをしています。手術室を滅菌する際に医療機器をくるむ布を利用するなどして作成をしています。総合病院ですらこうした手立てを講じなければ何もない状態。医療現場へ支援は待ったなしです

